教科書教材で学んだ表現のよさの観点を用いた短歌の創作

第２学年　国語科学習指導案

１　単元名　　短歌を創作しよう（５月下旬～６月上旬）

２　教材　　「短歌の世界」（三省堂）

３　単元のねらい

○　文章の表現の「よさ」について，根拠を明確にして文章にまとめることができる。
○　表現の「よさ」を活用して，短歌を創作することができる。
（言語活動）
○　詩歌や物語などを読み，内容や表現の仕方について感想を交流すること。
○　多様な考えができる事柄について，立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。

４　指導と評価の計画（全６時間）

第一次	１時間目	前半の解説文を通読し，短歌の基本事項・特徴を知る。 後半の十首の短歌を繰り返し音読し，暗唱する。
	２．３時間目	後半の十首の短歌について，資料や辞書を用いて心情や情景などを確認する。 気に入った一首を選び，その理由を簡単にまとめ，仲間と交流する。
第二次	１時間目	解説文の短歌の特徴的な表現について評価することで,その効果を考える。 気に入った短歌の特徴的な表現について評価する文章を書く。
	２時間目	前時で書いた文章を仲間と交流する。 短歌の「よさ」の観点を整理する。
第三次	１時間目	短歌を創作し，仲間と互いが創作した短歌の「よさ」について説明し合う。

５　指導の構想

従来の短歌の授業では，生徒に好きな短歌を選ばせて鑑賞文を書かせても，そこにどんな「よさ」があるのか，生徒に自分の言葉で書かせることができなかった。情景は書けても理由は「なんとなくよい」「なんか分かる」「この言葉が好き」どまり。これでは，仲間にそのよさを伝えることができない。生徒が「よさ」を語れる，文章に書けるようにしたいと考えた。

まず，特徴的な表現について評価する問いを行う。表現の仕方に賛成か反対か，根拠を挙げて意見を交流する。賛成か反対か立場を明確にする際に，生徒は表現による効果やわかりにくさ，誤解の恐れなどを考えることになる。

次に，同じ方法で気に入った短歌について，評価する文章を書かせ仲間と交流させる。生徒が気に入った短歌の「おもしろさ」や「よさ」には，どのようなものがあるのかを交流させ，「よさ」の観点を整理する。

さらに，学んだ表現の「よさ」の観点を活用して，生徒に短歌を創作させる。そうすることで生徒は，自分の短歌のよさや仲間の短歌のよさを，表現を基に語れるようになる。また互いにアドバイスし合うことで，作品を推敲することができるようになるだろう。

６　本時の指導

(1) 本時のねらい（４／６時間目）

短歌の特徴的，印象的な表現について評価や批評をする問いに対して，賛成か反対か根拠を

明確にして判断することによって，その短歌の表現のよさを記述することができる。

(2) 展開

<table>
<tr><th>教師の働き掛け</th><th>学習活動と予想される反応</th><th>評価と留意点</th></tr>
<tr><td>1　擬人法を用いたことの是非を問う。
発問　作者が「向日葵」を「少年の振る帽子」にたとえたことついてに，あなたは賛成ですか，反対ですか。
(判断力・表現力を育成する)</td><td>1　賛成か反対か自分の立場を決め，ノートに理由を書く。
<table><tr><td>賛成の理由</td><td>・「少年の帽子」から形と大きさがイメージできるから。
・「少年の振る」は「少年が振る」という意味だ。列車に向かって帽子を振っているように見えるのだから，向日葵が風に揺れている様子がわかるから。</td></tr><tr><td>反対の理由</td><td>・「少年の振る帽子」とある。「少年たちの」ではなく，「少年の」だ。話者が見ているのは，一本の向日葵なのだ。向日葵が一本だけで咲いているのを見たことがないから。
・「少年の振る帽子」の印象が強すぎて，「ごとし」を読み落とすおそれがある。短歌の情景をイメージする際に、本当に少年が帽子を振っているのだと間違うから。</td></tr></table></td><td>◇擬人化することの是非について理由を挙げて説明することができる。

・書けない生徒には擬人化しない書き方を提示し，違いを考えさせる。

・できるだけ両方の立場の意見を出させ，教科書に出ている作品について反対してもよいのだという体験を持たせる。</td></tr>
<tr><td>2　各自が気に入った短歌について評価して書かせる。
指示　あなたが気に入った短歌について，同じ方法で評価しなさい。
(思考力・判断力を育成する)</td><td>2　自分が選んだ短歌について同じ方法で問いを作り，評価して書く。

○ つばくらめ空飛びわれは水泳ぐ
一つ夕焼けの色に染まりて　　馬場あき子

ここで問題になるのは、作者が「つばくらめ空飛び」と「われは水泳ぐ」で，人と動物の動作を対比させて表現したことについて賛成か反対かということだ。
私は賛成だ。
同じ世界をそれぞれに生きる命の連帯感を感じられるからだ。「つばくらめ」と「われ」，動物と人間は違う。「空」と「海」。今いる場所も違う。動作も「飛ぶ」と「泳ぐ」で違う。しかし共通点もある。つばめとわたしが同じ「夕焼けの色に染まり」ながら動いている。同じ地球に生きる仲間という連帯感を私は感じた。</td><td>◇自分の考えを根拠を挙げて説明することができる。

・書けない生徒には最も特徴的，印象的な表現を選ばせる。</td></tr>
</table>